

《例えばこのように過ごすことができます》

事例①Aさん 80歳代女性、がん末期、ほぼ寝たきり



日中は1人の時間が多く不安もあるが、苦痛を和らげながら、住み慣れた自分の家で過ごしていきたい。

ケアプラン作成

安心して在宅療養生活が送れるように、本人・ご家族の意思・生活状況を聞いて、必要なサービスの調整をします。



ケアマネジャー

訪問診療

訪問診療を行い、苦痛を和らげるための治療を行います。緊急の場合にも、必要に応じて往診します。



訪問診療医

訪問介護

日中、ご家族がいない間のおむつ交換や食事、着替え等、身の回りのことをお手伝いします。



ホームヘルパー

訪問看護

病状の観察や体調管理、床ずれの予防や処置をします。健康面等、気になることの相談にのります。



訪問看護師

福祉用具設置

床ずれ予防の電動ベッドとエアーマットを福祉用具レンタルで準備します。



専門業者

訪問入浴

自宅に簡易浴槽を運び、入浴介助を行います。



介護事業者

在宅療養のヒント

- 胃ろうや点滴、人工呼吸器があっても、在宅療養は可能です。
→退院の際には、必要な機器が入手可能か、対応できる訪問診療医や訪問看護師がいるかどうか、本人や家族の状況などを、関係者で話し合って総合的に判断します。詳しくは、病院のソーシャルワーカーなどの相談員やケアマネジャーにご相談ください。
- 在宅療養を選択しても、具合の悪い時や検査が必要な場合には入院治療をすることもできます。
→訪問診療医と相談をしてください。一時的に入院し、状態が安定したら自宅や施設に戻ることもできます。「普段は在宅、時々入院」と使い分けることで、生活の質を保ちつつも、緊急時にも対応できる療養生活を送ることができます。
- 家族（介護者）が1人で頑張りすぎないことも大切です。
→在宅療養では、家族の負担軽減も大切です。日中は通所サービスを使ったり、施設のショートステイやレスパイト入院（短期入院）などを利用しながら、介護者も休息の時間をとりましょう。

《例えばこのように過ごすことができます》

事例②Bさん 70歳代男性、神経難病、胃ろう



身体が動かせなくなってきた、通院は難しくなりましたが、できるだけ入院はせずに、自由に趣味を楽しんだり孫と過ごしたりしたい。

ケアプラン作成

安心して在宅療養生活が送れるように、本人・ご家族の意思・生活状況を聞いて、必要なサービスの調整をします。



ケアマネジャー

訪問診療

定期的に訪問診療に伺います。胃ろうの管理も行います。状態が悪化した時には入院し、良くなったら、また在宅療養に戻ることもできます。



訪問診療医

訪問歯科

お口の中が汚れていると、肺炎のリスクも高まります。口腔ケアや入れ歯の調整、虫歯の治療などを行います。



訪問歯科医

訪問リハビリ

理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が自宅を訪問し、日常生活の維持や向上を目指して、リハビリを行います。また、安全で生活しやすいようにお家の環境調整についての提案をしたり、負担の少ない介護方法のアドバイスを行います。



療法士

訪問薬剤

自宅に訪問して、お薬を届けます。また、薬の説明や副作用がないかなどを確認します。



訪問薬剤師

訪問看護

医師の指示を受けて胃ろうのケアなどの医療処置を行います。病状観察をし、医師と連携を取ります。



訪問看護師

デイサービス

日帰りで施設に通い、他の利用者と関わる機会を作ったり、入浴の介助、レクリエーションなどを提供します。



介護事業者

在宅療養のヒント

- 訪問診療を受けている患者さんが、その病気が原因で亡くなった場合
→亡くなった後に訪問診療医が診察を行うことによって死亡診断を書くことができるので、警察が入ることはありません。
- 夜間や休日に具合が悪くなった場合も安心です。
→訪問診療を行っている医療機関や訪問看護ステーションで、24時間365日体制を取っている事業所もあります。不安な時は、まずは電話で相談することが出来ます。必要があれば、看護師の緊急訪問や、看護師から医師に病状を伝えることで緊急往診に繋がることもあります。